

ステレオ テープ デッキ

GX-635D

使用説明書

使用の前には、必ずこの説明書をお読み下さい。

目次

	ページ
ご使用のまえに	2
特長	3
録音再生方式について	3
各部の名称とはたらき	4-5
基本的な接続	6
コネクションコードの接続	6
ピンプラグの接続について	6
テープの知識	7
テープとりあつかい上の一般的な注意	7
テープセレクター	7
テープに録音できる時間は?	7
テープのかけかた	8
ステレオ録音①	9
録音のしかた	9
ステレオ録音②	10
REC MUTEの使いかた	10
録音入力レベルの合わせかた	10
ステレオ録音③	11
メモリーマーカーの使いかた	11
同時モニターのしかた	11
ステレオ再生	12
再生のしかた	12
ライン出力つまみの使いかた	12
モノラル録音、モノラル再生	13
操作前の確認事項	13
モノラル録音	13
モノラル再生	13
オートリバース、マニュアルリバース	14-15
マニュアルリバース	14
オートリバースさせるための用意	14
連続再生させるための用意	15
タイマーとの組み合わせ使用による留守録音	16
操作前の確認事項	16
多段階タイマーによる断続留守録音	16
タイマーとの組み合わせ使用による目覚し再生	17
操作前の確認事項	17
ダビング ①	18
テープダビングのしかた	18
オープンリール用テープからカセットテープへ	18
ダビング ②	19
オープンリール用テープからオープンリール用テープへ	19
いろいろな操作	20
ミキシング録音	20
後追い録音	20
録音済みテープの消去	20
編集	21
プログラムの頭出し	21
テープのつなぎ合わせかた	21
保守のしかた	22
クリーニング	22
規格	23
付属アクセサリ	23
電源周波数について	23
故障かな?と考える前に	24

保証について

この製品に添付されている保証書と保証登録カードにはお買い上げの販売店で、かならずお買い上げ日、販売店名など所定事項が記入されていることをご確認ください。なお、保証登録カードは所定の欄を記入して、お早目にポストへ入れてください。この保証登録カードは弊社保証登録センターに保管されますので、万一、保証期間中に保証書を紛失されても再発行することができます。

故障に際して「保証書」の提示がございませんと保証期間中でも有料修理となりますので、保証書記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。

AKAI

ごあいさつ

このたびAKAI GX-635Dをお求めいただきまして、たいへんありがとうございます。

本機は、自動往復録音機構により、26形（10号）リールを搭載して、4トラック方式の利点を最大限に生かした連続長時間録音が可能です。またタイミングランプつきのレコーディングミュート機構や、タイマースタートスイッチなど多くの機能を備え、FMエアチェックを中心としたマスターデッキとして、存分にご活用いただける様に開発、設計いたしました。

どうぞこの使用説明書をよくごらんの上、これらの機能を十分活用して、テープ録音の世界をお楽しみいただきますよう、お願い申し上げます。

ご使用のまえに

本機を設置するにあたり、以下のような状態のもとでのご使用は故障の原因になりますのでご注意ください。

- ◎暖房器具の放射熱や直射日光があたる場所
- ◎湿度の高い場所
- ◎ごみやほこりの多い場所
- ◎振動の伝わる場所
- ◎磁気の影響を受ける場所

また、本機のご使用にあたっては下記事項に十分ご注意ください。

- ◎本機は重量もあり、たおれると危険です。
- ◎電源コードに重いものをのせたり、角のついたものに、はさまないでください。コードの損傷や断線の原因となり大変危険です。
- ◎本機の内部にヘアピンなどの金属片が入りますと思われ故障の原因となることがあります。通風孔の近くにこれらのものを置かないようにしてください。
- ◎通風孔はふさがないようにしてください。

ヘッドまわりはいつでもきれいに

GXヘッドは、電磁特性・耐久性ともにすぐれているほか、ゴミ・ホコリが付きにくい特徴をもっていますが、それでも、たいせつな録音をする前や、スプライングテープで編集されたテープを使用した後には、かならずヘッドをクリーニングしてください。

また、キャブスタンやヘッド周辺のテープとの接触部分（ガイドローラー、テンションアーム、キャブスタン、テープガイドなど）は、走行の安定性を維持するため、常にクリーニングを心がけてください。なお、ピンチローラーやガイドローラーは薬品により変質する可能性がありますので、過度のクリーニングはさけてください。（毎日平均使用1時間のばあい、目安として1週間に1度ぐらいで十分です）

ヘッドの消磁を習慣づけましょう

録音あるいはたいせつなテープの再生時には、ヘッドの消磁を習慣づけるようにしてください。

ヘッドの消磁の方法は、22ページを参照してください。

テープの保管に注意しましょう

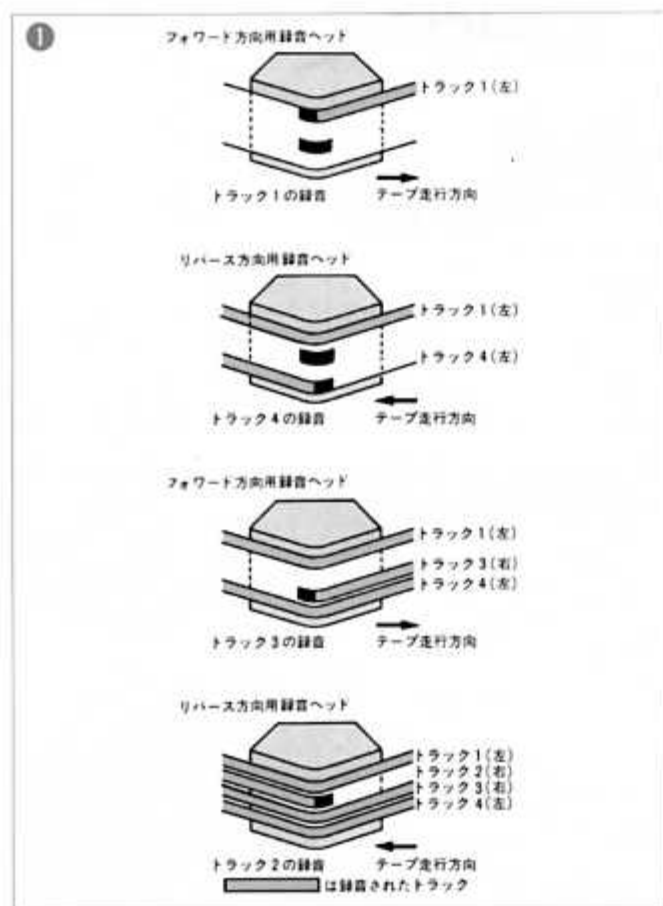
テープを長時間かけたままの状態にしておくと、テープが伸びたり、ほこりがついてしまい、大切なテープや本機を痛めてしまいます。使用後は、かならずテープを一方のリールに巻きとって保管をするように心がけてください。

特 長

- 最大26形 (10号) のリールを用いて長時間の往復録音、再生ができます。
- オート、マニュアルのリバース録音、再生ができます。
- リバースセクターでオートの連続再生、往復録音、往復再生、片道録音、片道再生などが目的に応じて切り換えられます。
- フォワード方向、リバース方向とも3ヘッド方式ですから、どちらの方向でも同時モニターが可能です。
- 録音用、再生用ともに動特性にすぐれたGXヘッドを採用しています。
- C.P.G.内蔵ACサーボモーターによるダイレクトドライブ・センターキャプスタン方式。
- ロジックICで構成されたシステムコントロールによる軽快なフェザータッチ・ダイレクトファンクションチェンジ機構。
- テープの装着に便利なテンションアームロック機構。
- テープの走行した量を時間で表示するリアルタイムカウンター。
- FMエアチェック時のCM等のカットに便利なレコーディ

- ングミュート (REC MUTE) 機構。ミュート録音中、約1秒間隔で点滅するタイミングランプもついています。
- FM番組の留守録音や目覚し再生に便利なタイマースタートスイッチ。
- 多段式タイマー使用による複数番組の長時間連続留守録音が可能。
- 再生時に±6%のテープスピードが可変できるピッチコントロール。
- 録音時のフェードイン、フェードアウトやミキシング録音に便利なフリクションストップ付メモリーマーカー
- 高度な録音テクニックをフルに発揮できる高性能大型VUメーター。
- リモートコントロール可能。
- インジケーター付で万一の誤消去も防止できるレコーディングモードスイッチ。
- シンプルな操作で確実にテープ性能を引き出す2ポジションテープセクター。
- ヘッドホンの音量調整もできる出力つまみ。

録音再生方式について

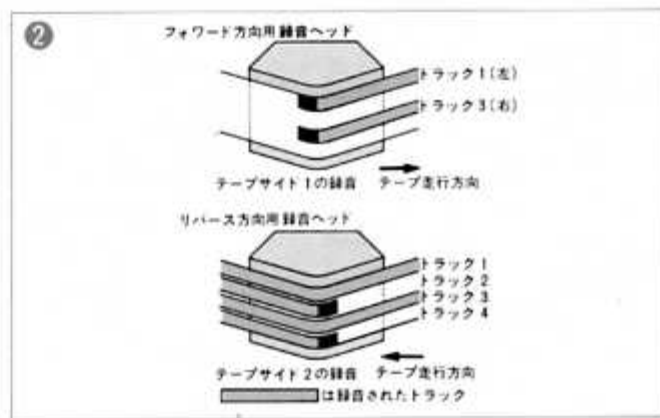


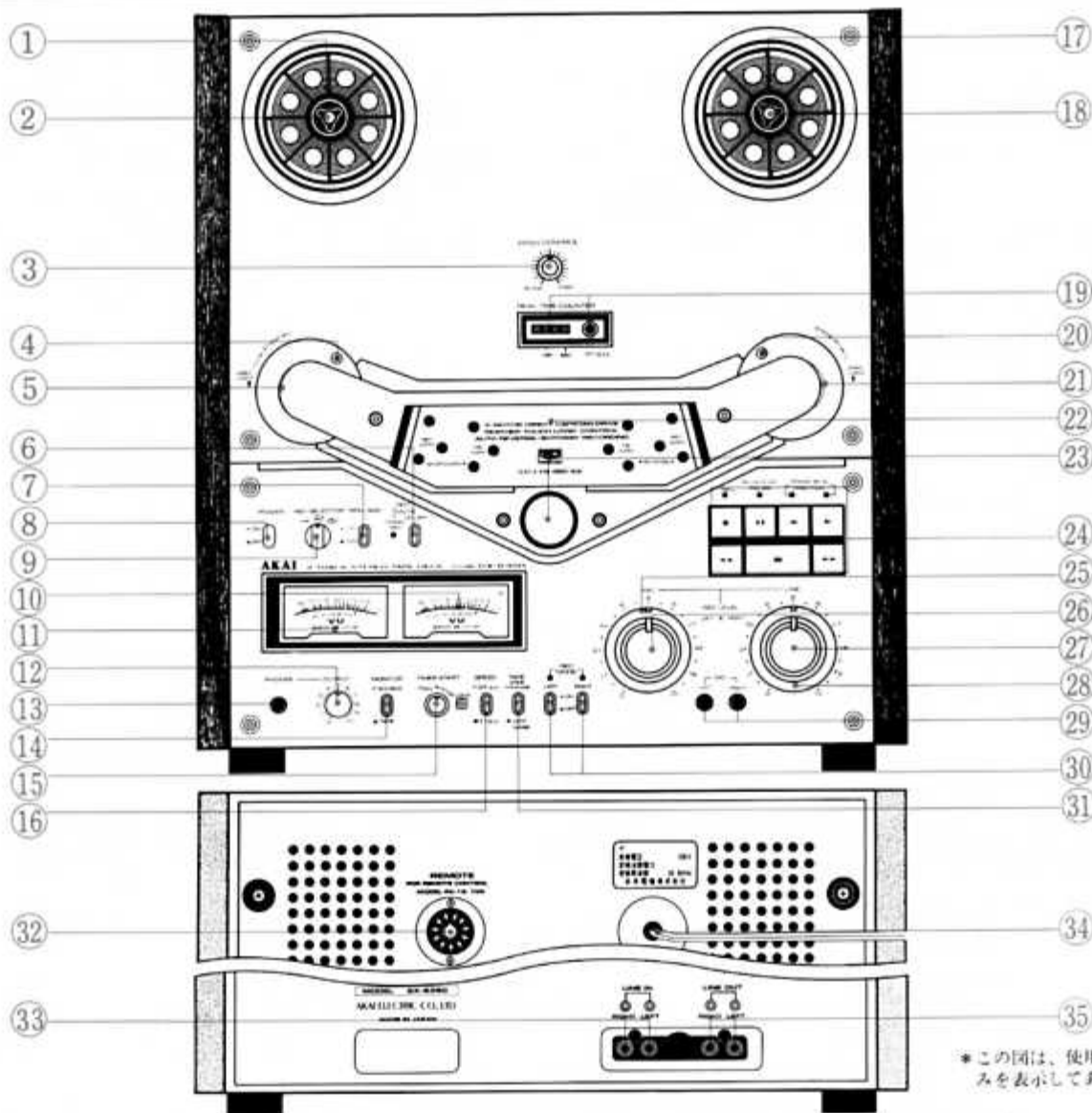
① 4トラック・モノラル録音・再生方式

4つに分けられたトラックを1本ずつ使用する方式です。一般にはトラック1、次にトラック4、トラック3、トラック2の順に録音します。トラック1、4はLEFT(左)チャンネルの回路が働き、トラック3、2はRIGHT(右)チャンネルの回路が働きます。従って1本のテープを2往復使うことができます。

② 4トラック・2チャンネル録音・再生方式

4トラック方式とはテープ幅を均等区切って使い、2チャンネル方式とは、一度の録音・再生で左・右チャンネル分2本のトラックを使用します。トラック1とトラック3をそれぞれ左・右チャンネルに使用し、逆サイドでは、トラック4とトラック2をそれぞれ左・右チャンネルに使用します。すなわち、1本のテープで一往復の2チャンネル録音・再生ができます。





*この図は、使用部分のみを表示してあります。

- ①供給リール台
 ②リール押え
 ③ピッチコントロールつまみ (PITCH CONTROL)
 中央のクリックの点が基準のスピードに、調整されています。再生時、テープスピードを±6%のあいだで変化させることができます。テープスピードを早くするばあいは、ファースト (FAST) 方向に回かし、遅くするばあいは、スロー (SLOW) 方向に回わします。
 *本機で録音したテープを本機で再生するばあいは、かならずこのつまみを中央のクリックのところに合わせておいてください。
- ④テンションアーム (センシングピン)
 テープに急激な力がかかるのを防ぐテンションアームとしてはたらくとともに、リバース方向用のセンシングピンとしてはたります。オートストップ機構と連動しています。テープの立ち上りをスムーズにするためウェイクアップ機構が組み込まれています。テープをかける時やはずす時、テンションアームをロックした状態で行なえば、簡単にしかもテープをいために出来ます。
 *テープをかけ終わりましたら、かならずテンションアームをSTAND BYの方向に回わしてロックを解除してください。
- ⑤ガイドローラー
 テープ走行を安定に保つためのローラーです。テープ走行を安定に保つために、クリーニングを心がけてください。
- ⑥レコーディングミュートスイッチ (REC MUTE) / タイミングランプ
 録音時、このスイッチを押すと無信号録音状態になります。10ページを参照してください。
- ⑦ *ミュート録音中は、タイミングランプが約1秒間隔で点滅します。

- ⑦リールサイズセレクター (REEL SIZE)
 使用するリールの大きさに合わせます。26号 (10号) のものは押し戻した状態に、17号 (7号) または、12号 (5号) のものは押し戻した状態にします。このスイッチの操作は、本機が停止している状態で行なってください。
 *左右のリールは、同じ大きさのリールを使用してください。
- ⑧電源スイッチ (POWER)
 本機に電源を入れる時は押した状態にし、電源を切る時は押し戻した状態にします。
 *電源を入れるばあいは誤動作防止のため、タイマースタートスイッチがPULLの位置にあることを確かめてください。
- ⑨リバースセレクター (REV SELECTOR)
 録音や再生時、このセレクターで合わせた位置によって、片道の録音や再生、一往復の録音や再生などが行なえます。14~15ページをごらんください。
- ⑩VUメーター (RIGHTチャンネル用)
 録音入力レベル、再生レベルが指針で表示されます。
 *表示は、ライン出力つまみと連動していません。
- ⑪VUメーター (LEFTチャンネル用)
- ⑫ライン出力 / ヘッドホン出力つまみ (OUTPUT-PHONES)
 録音および再生時のライン出力レベルとヘッドホン出力レベルを同時に調整できます。さらにLEFT、RIGHTが同軸となっており、左右同時可変式です。
 ライン出力は0から最大0.775Vまで調整でき、ヘッドホン出力は0から最大100mVまで調整できます。
 *VUメーターの表示とは連動していません。

⑬ヘッドホンジャック (PHONES)

録音や再生時にヘッドホンでモニターするばあいは、ヘッドホンのプラグを、このジャックに差し込みます。

＊ライン出力つまみで、ヘッドホンへの出力を調整できます。

⑭モニタースイッチ (MONITOR)

録音入力をチェックする時は、SOURCEに合わせ、録音されたものをチェックする時は、TAPEに合わせます。録音中SOURCEとTAPEを交互に切換えれば、録音入力と録音された音との比較ができます。

⑮タイマースタートスイッチ (TIMER START)

タイマー録音やタイマー再生を行なうときに使用します。安全性を確保するため、スイッチはいったん手前に引いて、時計の回転方向へ回すとはじめてロックされるようになっています。

＊タイマースタートスイッチは、タイマー録音/再生以外は、かならずPULLの位置に戻してあることを確認してください。テープをかけたまま、タイマースタートスイッチがLOCKの位置になっていると電源が入ったときすぐに録音または再生状態に入りますから、充分ご注意ください。LOCKからPULLの位置にするときは、このスイッチを手前に引いて反時計方向に回してからはなします。

⑯テープスピードセレクター (SPEED)

7 $\frac{1}{2}$ in (19cm/秒)、3 $\frac{3}{4}$ in (9.5cm/秒)の二通りのスピードに切り換えられます。

⑰巻き取りリール台

⑱リール押え

⑲リアルタイムカウンター (REAL TIME COUNTER)

テープ走行量が時間で表示されます。白い文字が分 (MIN)、赤い文字が秒 (SEC) を表示します。録音や再生の時、テープのはじめに、リセットボタンを押して "0000" にしておけばプログラムの頭出しや、テープの走行した量を時間で知るのに便利です。

＊この表示は、7 $\frac{1}{2}$ in (19cm/秒) のテープスピード時の表示です。3 $\frac{3}{4}$ in (9.5cm/秒) のテープスピードでは、カウンターに表示されている数字の約2倍が実際のテープの走行時間となります。

⑳テンションアーム (センシングピン)

テープに急激な力がかかるのを防ぐテンションアームとしてはたらくとともに、フォワード方向用のセンシングピンとしてはたります。テープの立ち上りをスムーズにするためワンウェイダンピング機構が組み込まれています。テープをかける時やはずす時、テンションアームをロックした状態で行えば、簡単にしかもテープをいためずに出来ます。

＊テープをかけ終わりましたら、かならずテンションアームをSTAND BYの方向に回してロックを解除してください。

㉑ガイドローラー

テープ走行を安定に保つためのローラーです。リアルタイムカウンターと連動しています。テープの走行を安定に保つために、クリーニングを心がけてください。

㉒ヘッドカバー

内部には左側から、フォワード方向用の消去ヘッド、録音用GXヘッド、再生用GXヘッド、リバース方向用の再生用GXヘッド、録音用GXヘッド、消去ヘッドが並んでいます。

ヘッドカバーをはずさずにヘッド調整が可能ですが、各ヘッドは工場出荷時に完全な調整がされており、調整ネジはロックされていますので、ドライバーなどで調整することは絶対にさけてください。

㉓ピンチローラー

録音及び再生時に、テープをキャプスタンに圧着させます。

㉔録音ボタン (●/REC)

フォワード方向の録音を行なうときは、このボタンとフォワードボタン(▶)を同時に押し、リバース方向の録音を行なうときは、このボタンとリバースボタン(◀)を同時に押しします。

＊録音(あるいは録音待機)状態になると、録音表示ランプが赤く点灯します。

ポーズボタン (■/PAUSE) REC MUTE OFF

録音及び再生時において、テープを一時停止(ポーズ)させる時に使用します。このボタンを押すと一時停止になり表示ランプが点灯します。再びこのボタンを押すと一時停止が解除されます。

また、REC MUTEがONとなっているばあいは、このボタンを押すとREC MUTE状態が解除されます。

リバースボタン (◀)

リバース(逆)方向で、再生状態にするときは、このボタンのみを押し、録音状態にするときは、録音ボタンとこのボタンを同時に押しします。

＊このボタンを押すと、リバース方向のスタンバイ&ディレクションランプ

が点灯します。リバース状態であっても、一度電源を切り再度電源を入れたばあいは、走行方向が自動的にフォワード方向に変わります。

フォワードボタン (▶)

フォワード(正)方向で、再生状態にするときは、このボタンのみを押し、録音状態にするときは、録音ボタン(●/REC)とこのボタンを同時に押しします。

＊このボタンを押すと、フォワード方向のスタンバイ&ディレクションランプが点灯します。

巻き戻しボタン (◀◀)

テープを矢印の方向に巻き戻すときに押しします。

ストップボタン (■)

録音、再生、早送り、巻き戻し、一時停止(録音待機)などの状態を解除するときは、このボタンを押します。

早送りボタン (▶▶)

テープを矢印の方向へ早送りするときに押しします。

スタンバイ & ディレクションランプ

キャプスタンモーターの回転方向を示します。従って、テープ停止時および早送り、巻き戻し時はスタンバイ状態を示し、録音および再生時はテープ進行方向を表示します。

㉕メモリーマーカー (MIC 入力用)

録音時のフェードイン、フェードアウトやミキシング時に、もとの入力つまみの位置を指示しておくに便利です。メモリーマーカーをセットした位置で、つまみは停止します。つまみをさらに力を入れて回すと、メモリーマーカーもいっしょに回ります。

㉖マイク入力つまみ (REC LEVEL-MIC)

マイク入力の録音入力レベルを調整するときに使用します。内側がLEFT、外側がRIGHTチャンネル用です。

フェードイン、フェードアウトがかんたんにできるように左右同軸で、しかも左右いっしょに回るフリクションタイプとなっています。

㉗ライン入力つまみ (REC LEVEL-LINE)

ライン入力の録音入力レベルを調整するときに使用します。内側がLEFT、外側がRIGHTチャンネル用です。

フェードイン、フェードアウトがかんたんにできるように左右同軸で、しかも左右いっしょに回るフリクションタイプとなっています。

㉘メモリーマーカー (LINE 入力用)

㉙マイクロホンジャック (MIC)

マイクロホンを使用する時は、マイクロホンのプラグをこのジャックに差し込みます。左チャンネルはLEFTを、右チャンネルは、RIGHTを使用します。

㉚レコーディングモードスイッチ (REC MODE)

録音時はかならずONにします。ステレオ録音のばあいはLEFTとRIGHTのスイッチを、モノラル録音のばあいはLEFT、あるいはRIGHTのいずれか一方のスイッチのみをONに合わせてください。

再生時はOFFに合わせます。とくに、タイマースタートスイッチ使用時の誤消去防止スイッチとしてもはたりますので、録音時以外はかならずこのボタンをOFFの状態にしておいてください。

㉛テープセレクター (TAPE)

使用するテープによって、LOW NOISEまたはWIDE RANGEに合わせます。くわしくは、7ページをごらんください。

㉜リモートコントロールジャック (REMOTE)

本機を離れたところから操作するばあいは、リモートコントロールユニットRC-18-J、RC-70-J(別売)をこのジャックに接続します。

＊リモートコントロールユニットRC-18-Jを使用しても、タイマー録音やタイマー再生ができます。

＊このばあいは、タイマースタートスイッチの操作より、リモートコントロールユニットでの操作が優先されます。

㉝ライン入力ジャック (LINE IN)

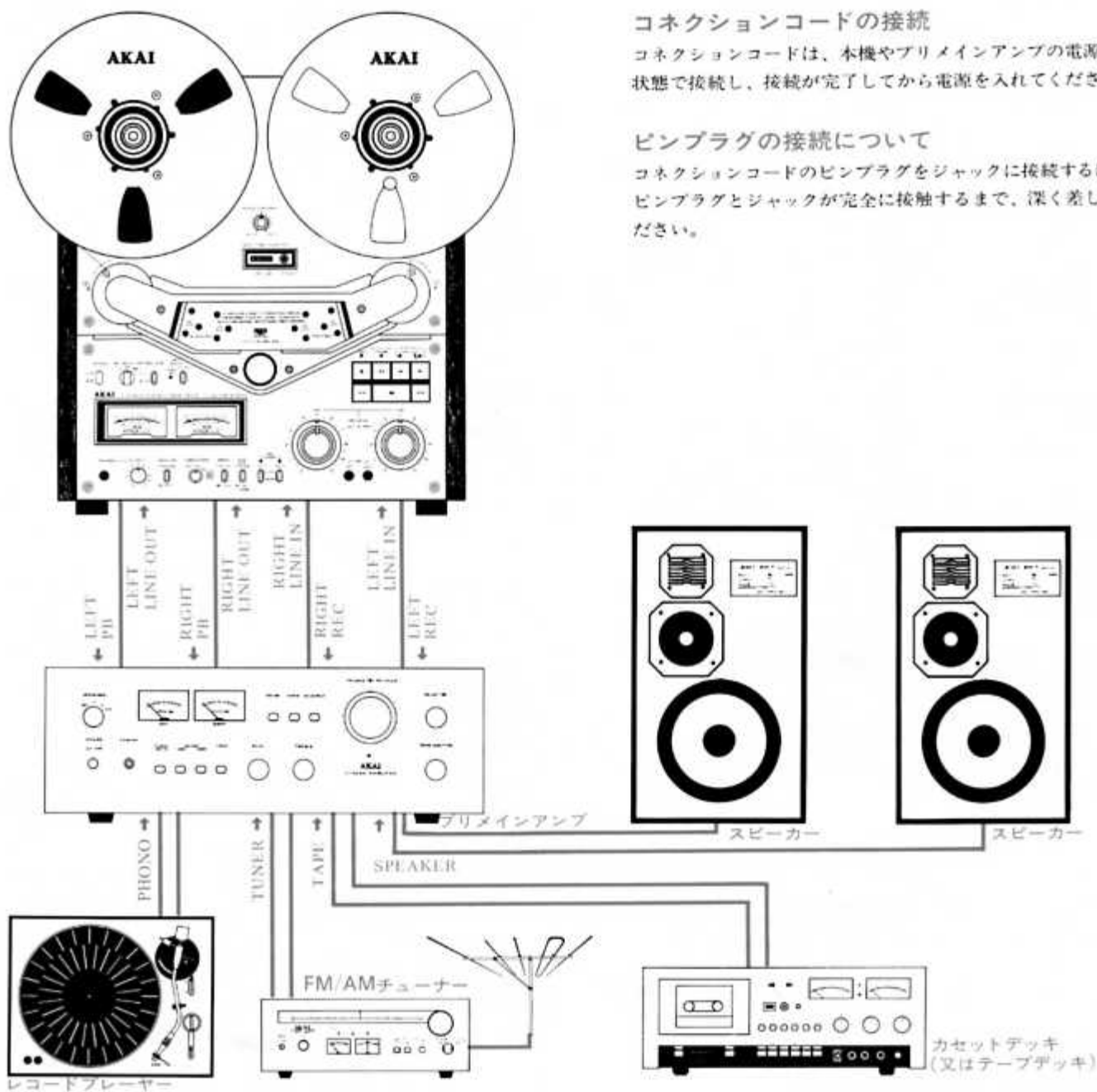
他のテープデッキからのダビング又は、外部アンプから録音する場合は、コネクションコードをこのジャックに差し込みます。

㉞電源コード

㉟ライン出力ジャック (LINE OUT)

外部のアンプに接続する場合及び他のテープデッキにダビングする場合は、このジャックからライン出力をとります。左チャンネルはLEFT、右チャンネルはRIGHTの端子です。

FMエアチェックのためのタイマー録音、またはタイマーを使用する目覚し再生、その他テープダビングについては、16～19ページを参照してください。



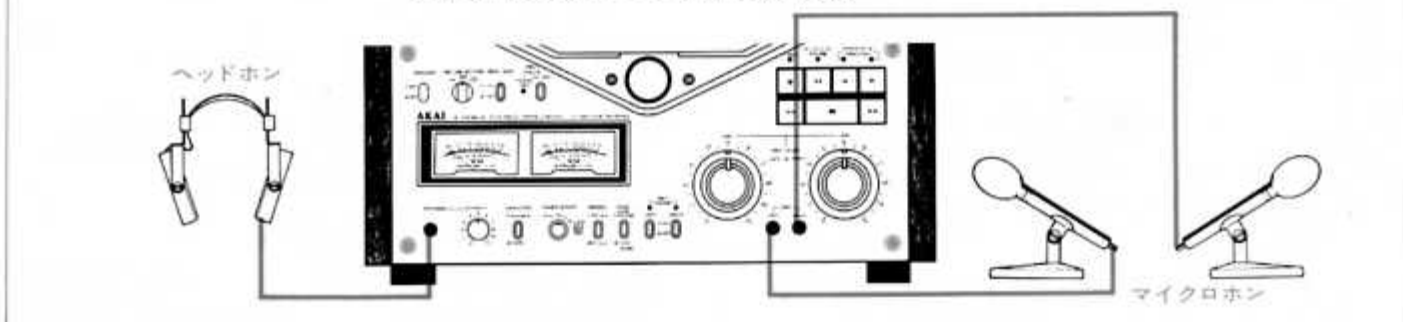
コネクションコードの接続

コネクションコードは、本機やプリメインアンプの電源を切った状態で接続し、接続が完了してから電源を入れてください。

ピンプラグの接続について

コネクションコードのピンプラグをジャックに接続するばあいは、ピンプラグとジャックが完全に接触するまで、深く差し込んでください。

マイクロホンとヘッドホンの接続



テープとりあつかい上の一般的な注意

- テープの磁性面に指を触れると、音とび（ドロップアウト）の原因にもなるので、ご注意ください。
- テープの両端（巻き始めと巻き終り）にあるリーダーテープには録音できません。従って、リーダーテープは、あらかじめ巻き取ってからご使用ください。
- 薄いテープ（200%以上：例；細ハブ7号リールで740m(2400ft)のテープ）をご使用の際は、テープのとりあつかいに十分注意してください。またこの薄いテープは“マスター巻き”の状態でご保管するようにし、早送りや巻き戻しによって、テープの巻き乱れがあるままで保管すると、テープを痛めたりするのでさけるようにしてください。

テープセレクトター

市販のテープに対するテープセレクトターの位置（ポジション）は、下の表をごらんください。

ブランド	Low Noiseポジション	Wide Rangeポジション
	ローノイズ型	ローノイズ・ハイアウトプット型
AKAI	LN	WR
スコッチ	#176 #177	#206、#207、#218 #250 #1500、#2000
ソニー		ULH ULHバックコート DUAD
TDK	Low Noise	AUDUA AUDUA-LB
マクセル	LN	UD UD-XL
BASF	LH, LHS	LHプロフェッショナル

テープデッキでは、ヘッドによる磁気変換を行なうため、いろいろな磁気損失によって、10kHzぐらいから、出力は減衰してゆきます。この損失を補正するために、イコライザー（補償回路）を設け、20kHzぐらいまで、フラットな特性にしています。これらの補償は、テープの磁気特性によっても異なりますから、テープセレクトターは、かならず正しい位置に合わせてください。本機に採用されているGXヘッドは、一般のヘッドにくらべ、磁気変換損失が少なく、たいへん効率が良いため、イコライザーでの補償量が少なくてすみます。従って、補償量を少なくした分だけテープのダイナミックレンジが広がったことになり、高域でのハイレベル録音が可能となりました。また、アンプやテープの持つノイズも、イコライザーで増加させる量が少なくなりますから、総合的なS/N比が良くなります。

テープに録音できる時間は？

市販されているテープには、1100m(3600ft)、740m(2400ft)、550m(1800ft)、370m(1200ft)などの長さのものがありますが、本機はテープスピードセレクトターによって、7 $\frac{1}{2}$ in(19cm/秒)、3 $\frac{3}{4}$ in(9.5cm/秒)の2種類のテープスピードに切り換えられるので、テープに録音できる時間は、下の表を参照してください。なおテープスピードの違いによって、次のような性能があります。

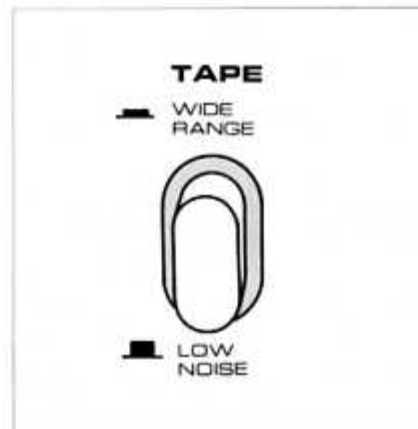
- テープスピードの速い方が、より広帯域の録音ができ、ワウフラッターも減少します。
- テープに録音できる時間は、テープスピードの速い方が、より短くなります。

4トラック 2チャンネルステレオ録音・再生方式

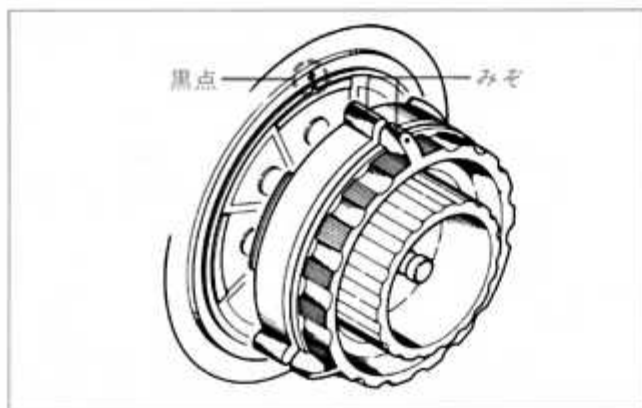
テープスピード		テープの長さ		
		1100m (3600ft)	740m (2400ft)	550m (1800ft)
7 $\frac{1}{2}$ in (19cm/秒)	片道	90分	60分	45分
	往復	180分	120分	90分
3 $\frac{3}{4}$ in (9.5cm/秒)	片道	180分	120分	90分
	往復	360分	240分	180分

4トラック モノラル録音・再生方式

テープスピード		テープの長さ		
		1100m (3600ft)	740m (2400ft)	550m (1800ft)
7 $\frac{1}{2}$ in (19cm/秒)	片道	90分	60分	45分
	往復	180分	120分	90分
	往復+片道	270分	180分	135分
	二往復	360分	240分	180分
3 $\frac{3}{4}$ in (9.5cm/秒)	片道	180分	120分	90分
	往復	360分	240分	180分
	往復+片道	540分	360分	270分
	二往復	720分	480分	360分

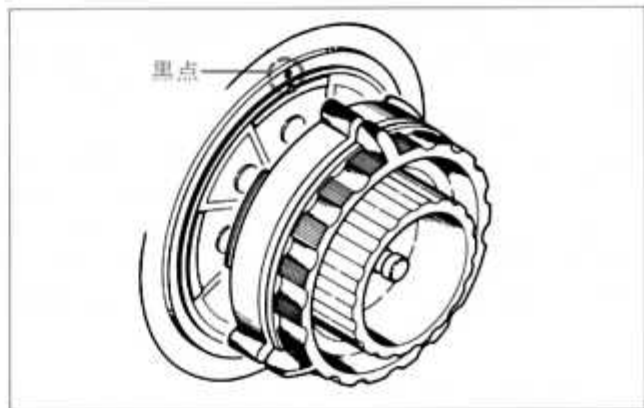


プラスチック製の26形（10号）リールと、金属製の26形リールとでは、リールハブアダプター（付属アクセサリー）の取り付け方法が異なります。



プラスチック製26形リールに対して
リール台にある黒点と、リールハブアダプターにある“みぞ”を
合わせて取り付けます。

以下の操作は、プラスチック製、金属製の26形リールとも同じです。



金属製26形リールに対して
リール台にある黒点に、リールハブアダプターの“みぞ”を合わ
せずに取り付けます。

テンションアームは、あらかじめ◀の方向（ARM LOCK）に回わしてロックの状態にしておいてください。

＊テープをかけ終わりましたら、かならずテンションアームをSTAND BYの方向に回してロックを解除してください。



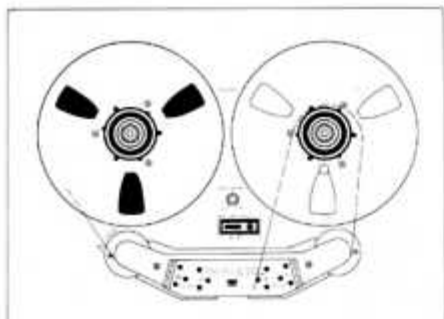
1. リールハブアダプターをリール台に装着したあと、リール押えを手前に引いて、右または左に少し回してから離します。



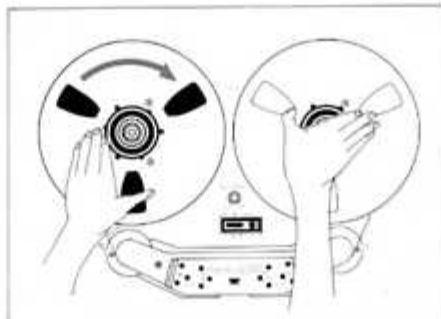
2. 外側のリングを片手で押え、もう一方の手で内側のリングを時計方向に回して固定します。



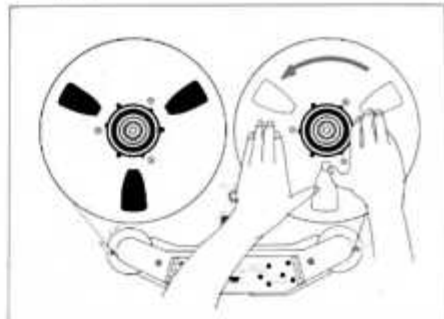
3. テープのあるリールを供給リール台に、空リールを巻き取りリール台に装着し、リールを片手で押え、もう一方の手で、リールハブアダプターの外側のリングを時計方向に回し、リールを固定します。



4. テープを70～80cmほど引き出し、図の線で示されるように通して、空リールにかけます。

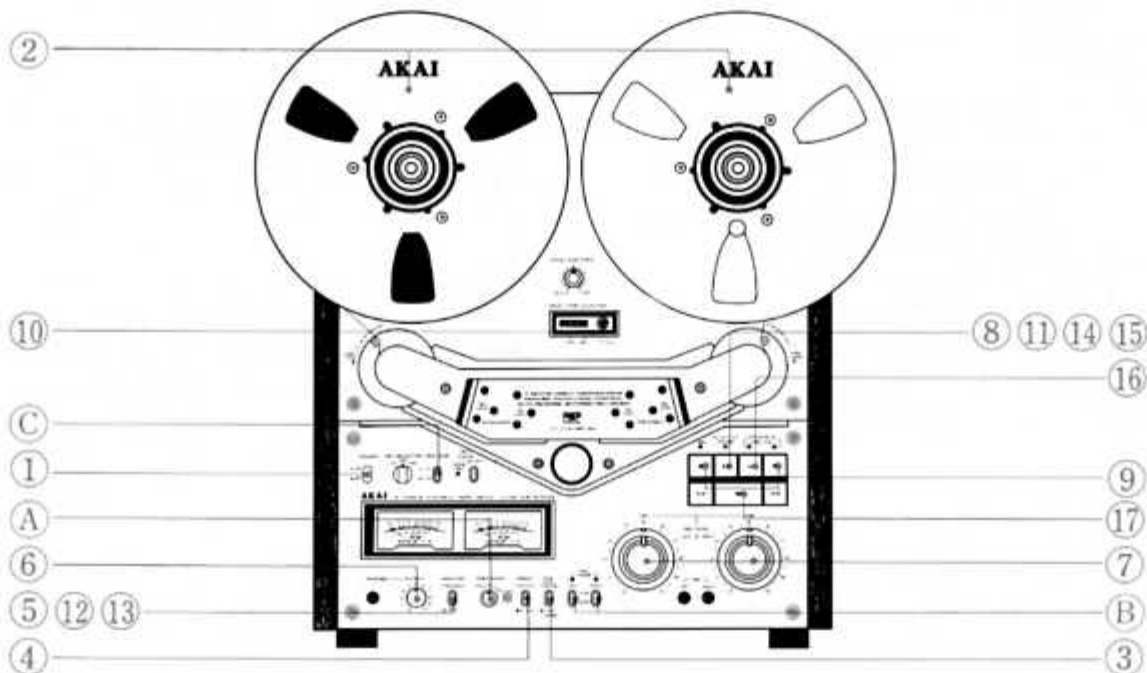


5. 空リールのテープを親指で軽く押え、テープの先端がくるまで、供給リールを時計方向に回し、テープを巻き戻します。



6. 親指でテープの先端を押えたまま、空リールを両手で反時計方向に回し、テープがずれないようにするまで巻き取ります。

タイマーを使った録音については16ページを参照してください。数字は録音の順序を示します。



録音のしかた

操作前の確認事項

- 接続は正しいですか？……6ページを参照
- タイマースタートスイッチ (TIMER START) はPULLの位置にします。……上図の②
- レコーディングモードスイッチ (REC MODE) はLEFTとRIGHTともONの位置にします。……上図の⑩
- 電源コードは正しくコンセントに接続されていますか？
- リールサイズセレクター (REEL SIZE) は、使用するリールの大きさに合っていますか？……上図の③

1. 本機およびFMチューナー、プリメインアンプなどの電源スイッチをONに合わせ、電源を入れます。
2. テープと空リールをそれぞれのリール台にセットします。
3. テープセレクターを使用テープに合わせます。
4. テープスピードを選び、テープスピードセレクターを合わせます。
5. モニタースイッチをソース (SOURCE) に合わせます。
6. ライン出力つまみを時計方向いっぱいに向かし、最大の位置に合わせます。
 - 録音レベル調整時、出力レベルが大きすぎる場合はこのつまみを調整してください。
7. ライン入力つまみ (マイクロホンでの録音はマイク入力つまみ) を回して、録音入力レベルを調整します。
 - “録音入力レベルの合わせかた” (10ページ) と、“メモリーマーカーの使いかた” (11ページ) を参照してください。
8. ポーズボタン (■/PAUSE) を押します。
9. 録音ボタン (●/REC) とフォワードボタン (▶) を同時に押します。
 - このとき録音表示ランプが赤く点灯するのを確かめてください。
10. リセットボタンを押して、リアルタイムカウンターを“0000”にします。

11. 録音をはじめるとききたら、ポーズボタン (■/PAUSE) をもう一度押して一時停止状態を解除すれば、テープが走行し録音を開始します。
12. 録音がスタートしたら、モニタースイッチをテープ (TAPE) に合わせ、同時モニターを行ないます。
 - “同時モニターのしかた” は11ページを参照してください。
 - スピーカーでモニターしている場合は、プリメインアンプ (またはレシーバー) のテープモニター用スイッチを、テープ (TAPE) に合わせておかないと、同時モニターはできませんから注意してください。
 - このとき、モニターをしやすいように、本機のライン出力つまみを調整してもかまいません。(ライン出力つまみの使いかた：12ページをごらんください。)
13. FMエアチェックでCMなどをカットしたいときは、CMの手前でモニタースイッチをソース (SOURCE) に合わせソースモニターを行ないます。
14. CMのところがきたら、ポーズボタン (■/PAUSE) を押して、一時停止状態にします。
15. CMが終わったらもう一度ポーズボタンを押して一時停止状態を解除すればテープが走行をはじめ、ふたたび録音が始まります。
16. テープが終りにくる前に、曲のちょうど良い切れ目でリバースボタン (◀) を押し、約3〜4秒間停止後、リバース方向の録音走行に移ります。
17. 録音状態を解除するときはストップボタン (■) を押します。
 - 録音が終わったらテープを初めから再生するときは巻き戻しボタン (◀◀) あるいは早送りボタン (▶▶) を押し、テープをリアルタイムカウンターの数字が“0000”のところまで送ります。
 - 再生のしかたは12ページを参照してください。
 - 録音走行中は、レコーディングモードスイッチ (REC MODE) を、せつたいにONあるいはOFFに切り換えないでください。
 - 切り換える場合は、かならずストップ状態の時に行なってください。

REC MUTEの使いかた

録音走行時REC MUTEスイッチを押すと、録音バイパス回路はそのままで無信号走行状態となり、タイミングランプが約1秒間隔で点滅します。また、REC MUTE時、モニタースイッチをSOURCEに切り換えれば、テープ上に記録はされませんが、ソースモニターをすることができます。

FMエアチェックでCMなどのカットを行なうときや、ダビングしながら編集を行なうときに、約1秒間隔で点滅するタイミングランプを利用すると、曲間に任意の長さの無信号部分がつくれます。

前の“録音のしかた”の13、14、15の操作において、REC MUTEを上手に利用する例として、以下を参考としてください。

前の1～13までは同じ操作を行なってください。

14. CMのところがきたらREC MUTEスイッチを押します。

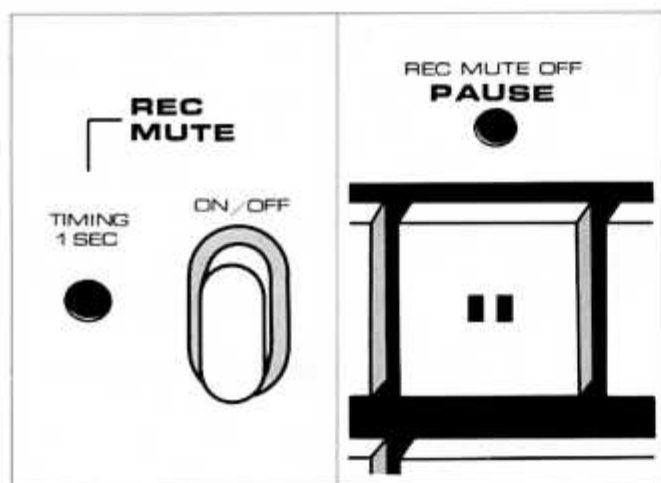
(下図をごらんください。)

＊このとき、タイミングランプが約1秒間隔で点滅します。

あらかじめ曲間の長さを決めておき、タイミングランプの点滅した回数をかぞえ、ちょうど良い回数になったところで、ポーズボタン(■/PAUSE)を押して一時停止状態にします。

このときタイミングランプが消え、REC MUTE状態が解除されます。

以下15～17の操作は前と同じです。



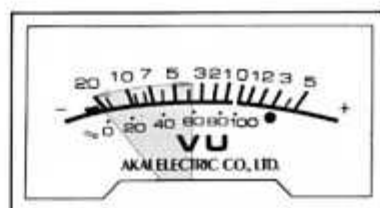
録音入力レベルの合わせかた

録音入力レベルのもっとも正しい合わせかたは、使用するテープにより感度などが変わりますので、録音走行状態にして、モニタースイッチをTAPEにし、VUメーターの指針の振れが最大のとき、“0VU”付近になるよう入力つまみを調整します。このとき、左右の入力つまみの位置が多少違っていても、VUメーターに表示されているレベルがすべての基準となりますから、あくまでも、VUメーター主体のレベル調整をするようにしてください。こうすることにより、もっとも正しい録音レベルを得ることができます。

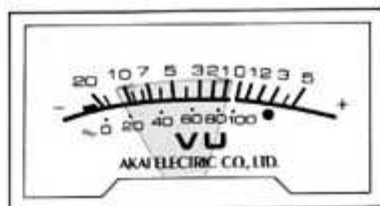
本機はGXヘッドを備えているので、録音や再生時の損失が少なく、さらにダイナミックレンジの広い高性能テープを使用すれば、時々“0VU”をオーバーしても歪まずに録音ができます。また録音時には、同時モニターを行ないながら、歪の感じられない範囲までレベルを上げることができます。レベルを上げることにより、その分ダイナミックレンジが広くなり、S/Nの良い録音ができます。

＊録音入力によっては、テープに記録されたものが歪を生じているのに、VUメーター上ではわからないものがありますから、このようなばあいにも、同時モニターを行なうことによって、歪の有無を確かめることができます。

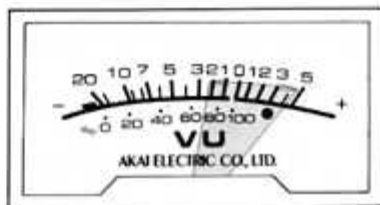
以下は基本的な録音入力レベルの調整例を示します。



①レベルが低い
→S/Nが悪くなる。



②ちょうど良い
→良い録音



③レベルが高い
→歪が出る

